

市立ひらかた病院 概要

平成28年11月17日

病院概要

病院の理念と基本姿勢

病院の沿革

医療の特色

がん診療・緩和医療

救急医療

災害医療

感染症対策

医療安全

地域医療との関わり

その他の取り組み

経営状況の推移

市立ひらかた病院の理念

本院は、

「心のかような医療を行い、信頼される病院」

を理念とし常に患者様の立場に立ち、
患者様を中心とした医療サービスを提供します。

1. 地域の中核となる公立病院として各医療機関との連携を密にし、地域に根ざした安心と満足の得られる質の高い安全な医療を提供します
2. 患者様の権利を尊重し、信頼関係に基づいた温かく思いやりのある医療を提供します

枚方市

北河内2次医療圏
(約120万人)

枚方市 約41万人
交野市、寝屋川市
併せて約70万人

全国349ヶ所の二次医療
(ハーフィンダール指数)

北河内	15位
三島	49位
大阪市	2位



病院の沿革(1)

昭和25年	国民健康保険直営市民病院として開院
昭和35年	現在の形態の市民病院となる
昭和45年	救急指定病院
昭和54年	臨床研修指定病院
平成 9年	医療事故対策委員会設置
平成11年	倫理委員会設置
平成12年	地域医療連携室設置
	小児救急24時間365日体制実施

病院の沿革(2)

- 平成14年 医療事故等防止監察委員協議会を設置
- 平成15年 全館禁煙実施、カルテの全面開示
- 平成16年 電子カルテ導入、地方公営企業法全適
院外処方箋発行
- 平成17年 女性外来開始、安全管理室設置
TQM(Total quality management)開始
- 平成18年 診療領収明細書発行開始
- 平成19年 医療機能評価認定(Ver5)
- 平成20年 新病院整備実施計画策定

病院の沿革(3)

- 平成21年 **DPC導入** レントゲンフィルムレス化
- 平成22年 北河内夜間救急センター枚方に移転
- 平成23年 新病院建築業者決定、電子カルテ更新
- 平成24年 新病院建築開始
医療機能評価認定(Ver6)
- 平成25年 形成外科開設
- 平成26年 9月 **市立ひらかた病院**に病院名を変更
して新病院開院
- 平成27年 乳腺外科を開設
- 平成28年 **大阪府がん診療拠点病院**に指定
地域医療ネットワークシステムの構築
- 平成29年 **医療機能評価認定更新予定(3rd:G Ver1.1)**

施設概要

開発区域面積	21,973	m ²
敷地面積	20,927	m ²
延床面積	31,835	m ²
地上7階、地下1階、搭屋1階 鉄筋コンクリート造(免震構造)		
病床数	335床	
うち緩和ケア病棟	20床	
感染症病棟	8床	

新病院の配置計画（鳥瞰図）



鳥瞰イメージ

病院の機能と役割の明確化

市民病院としての機能と役割

- ①市民病院しかできない(小児救急)
- ②市民病院として果たすべき(救急医療、夜間・休日診療、災害時医療)
- ③市民病院だから果たせる(地域医療機関連携、保健・福祉との連携)

市民病院基本構想より(H.15年3月)

本院の医療の特色

24時間 365日
小児科・内科・外科系
救急診療体制

感染病床8床
府指定第2種

一般病床307床
緩和ケア 20床

外来患者・入院患者

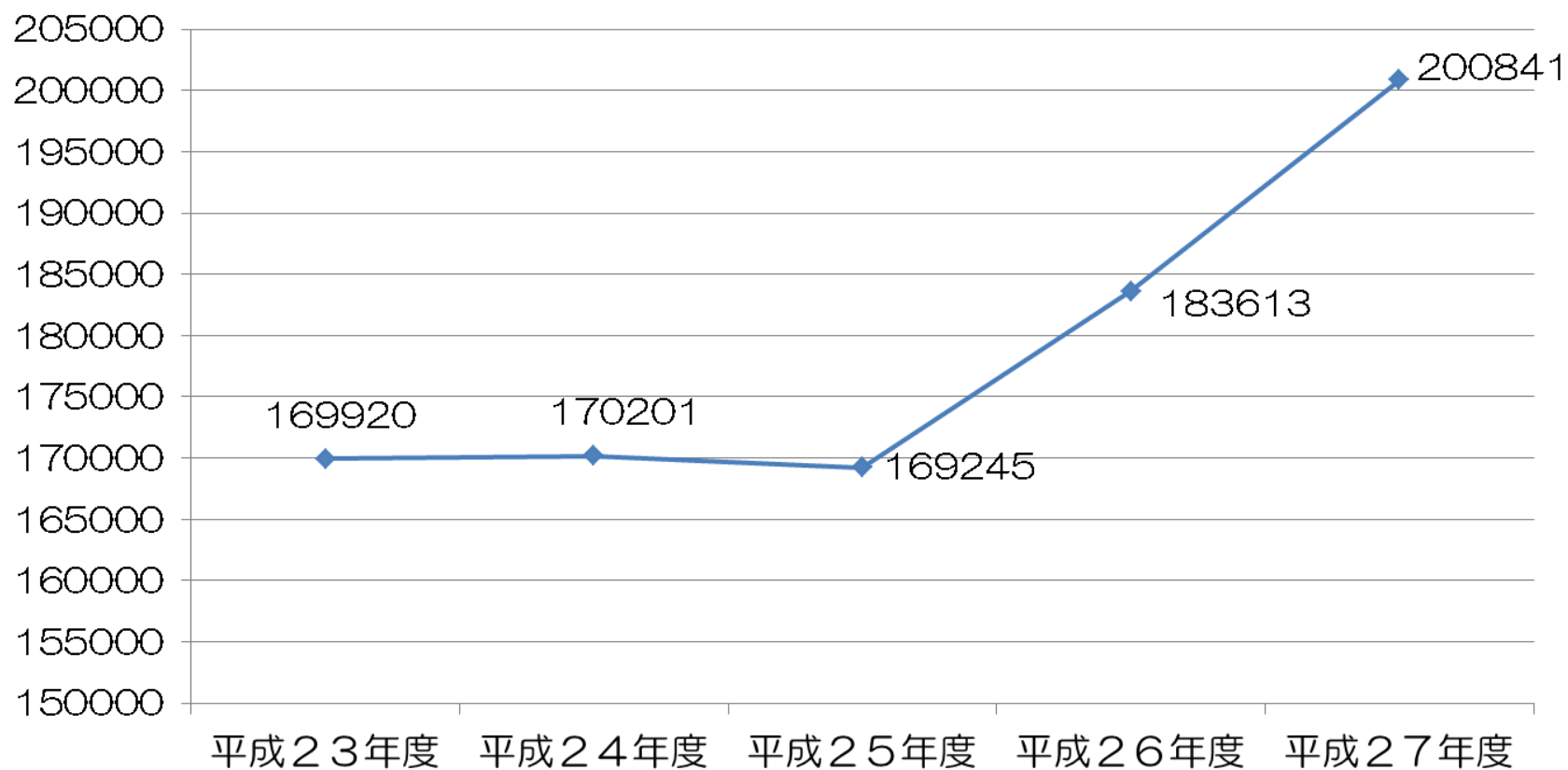
病棟の内訳

	4F東	5F東	5F西	6F東	6F西	7F東	感染症病棟
病床数	46	47	47	47	47	38	8
入院料区分	一般病棟7対1						

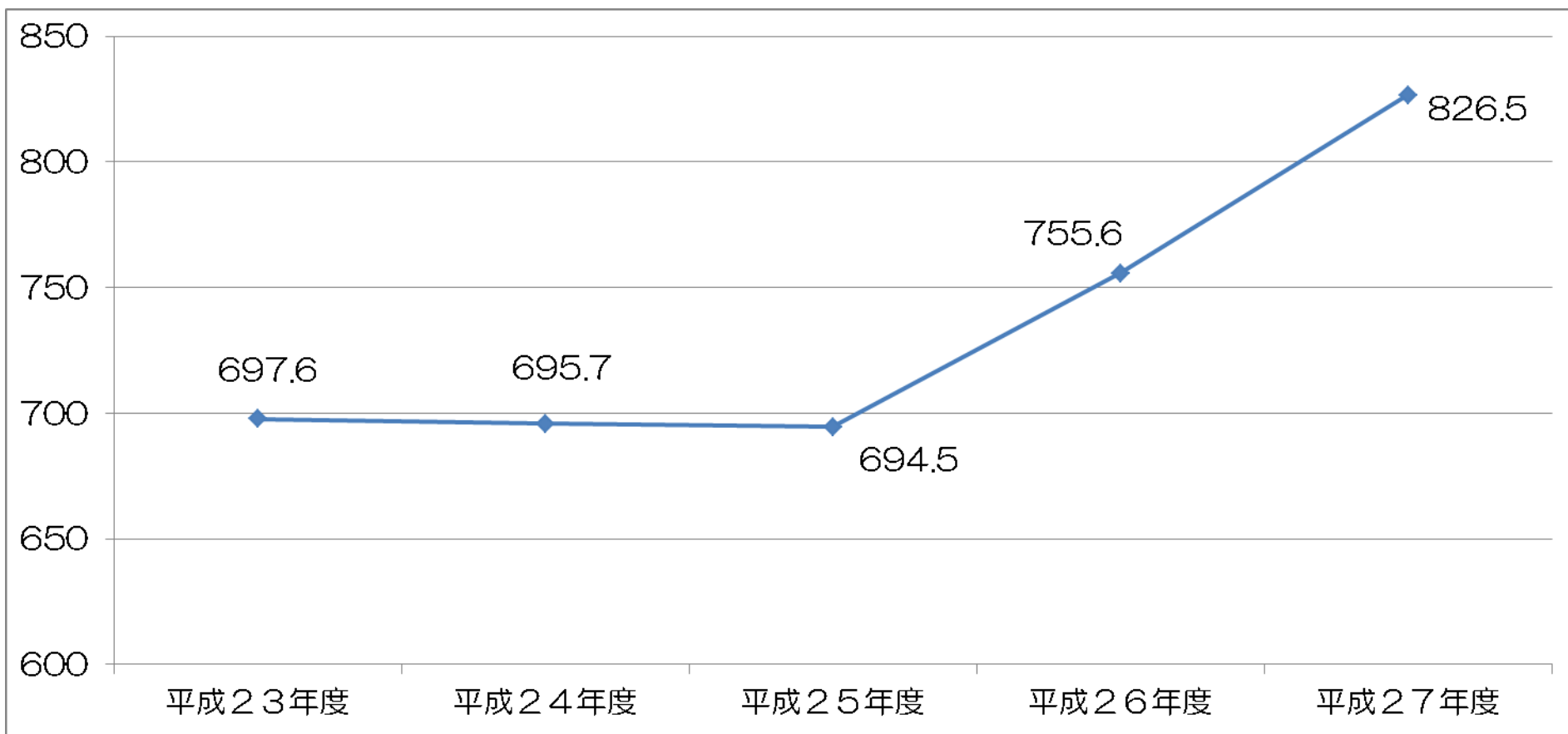
	4F西	緩和ケア病棟
病床数	35	20
入院料区分	小児入院医療管理料2	緩和ケア病棟入院料

総病床数 335床

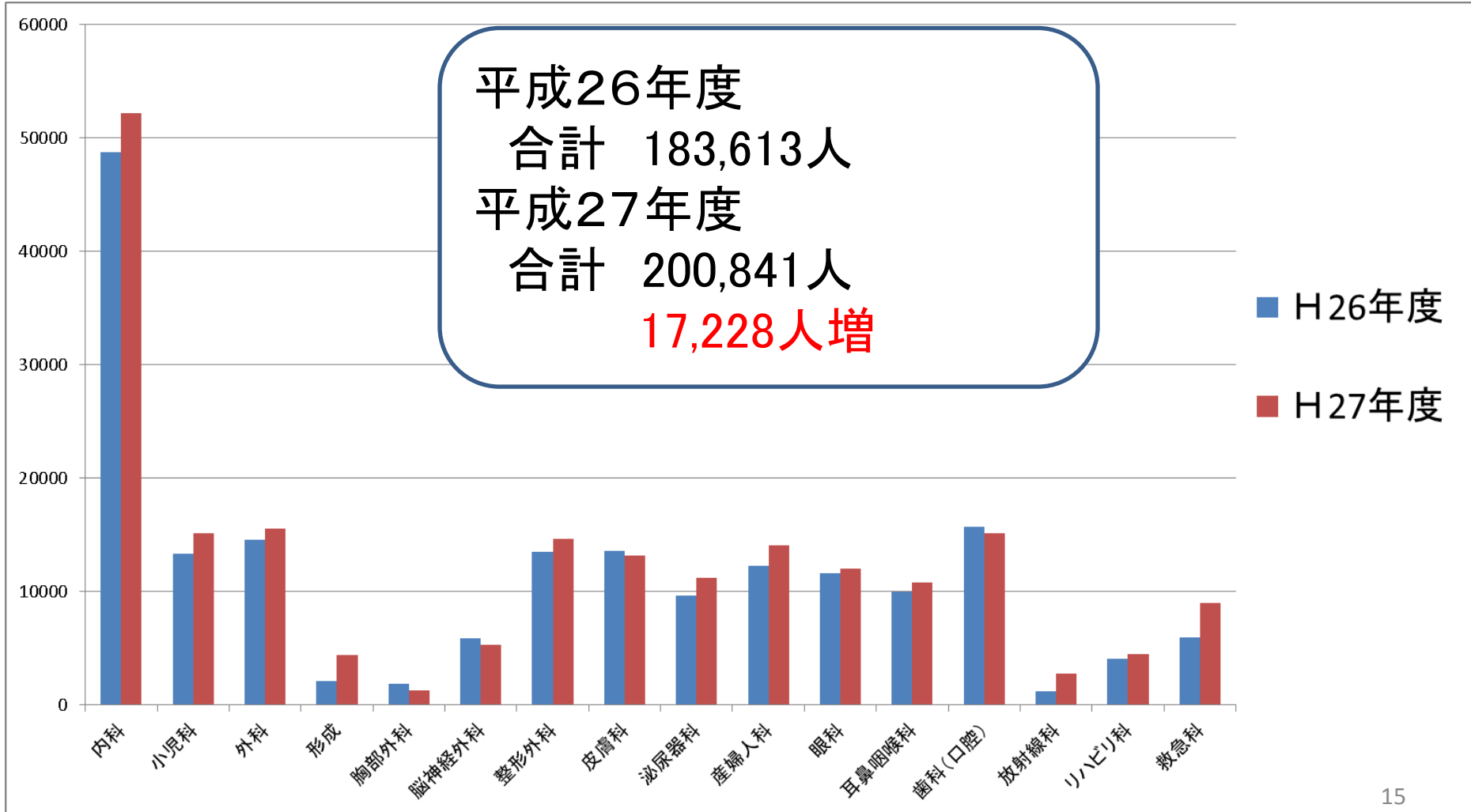
外来患者数



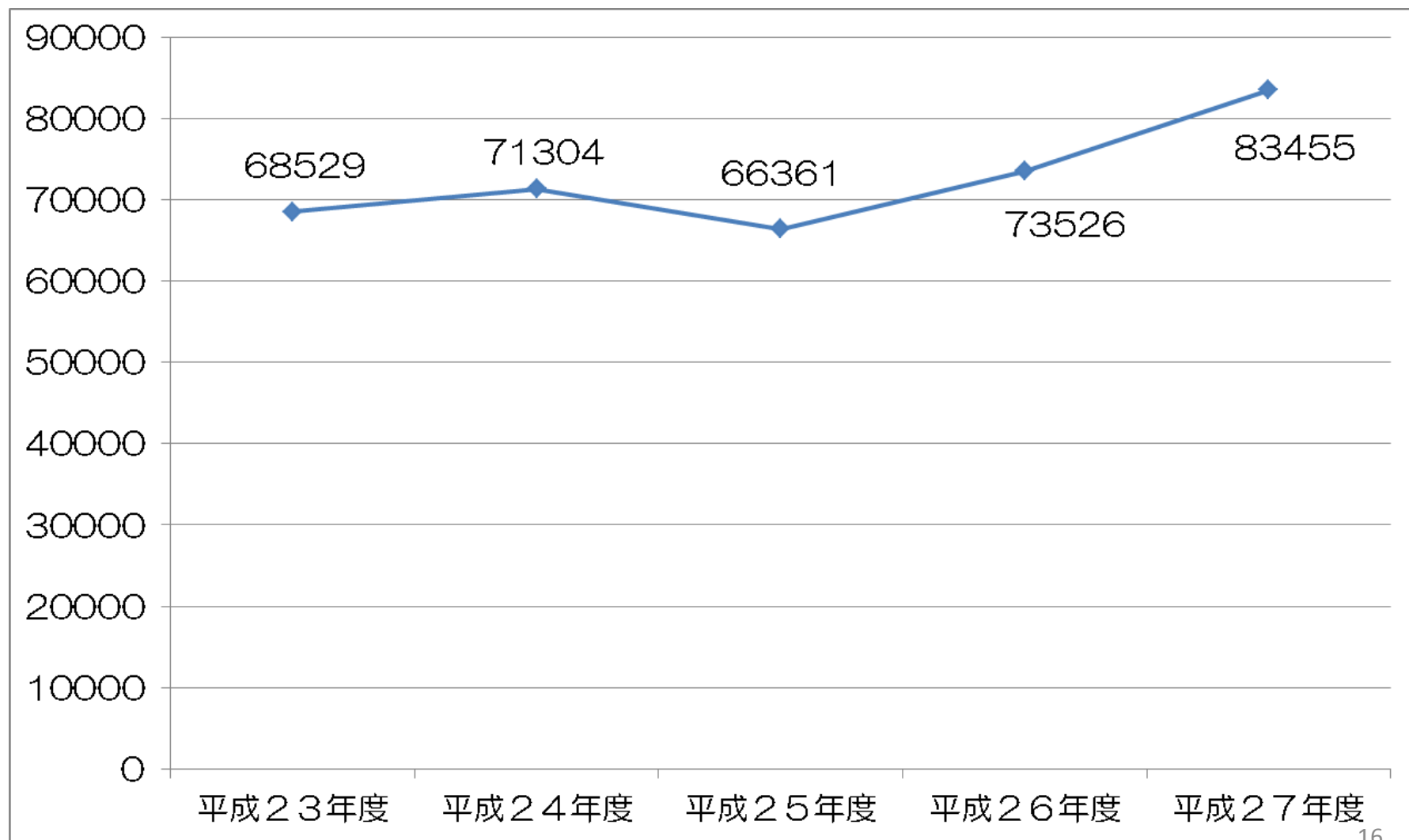
外来 1 日 平均 患者 数



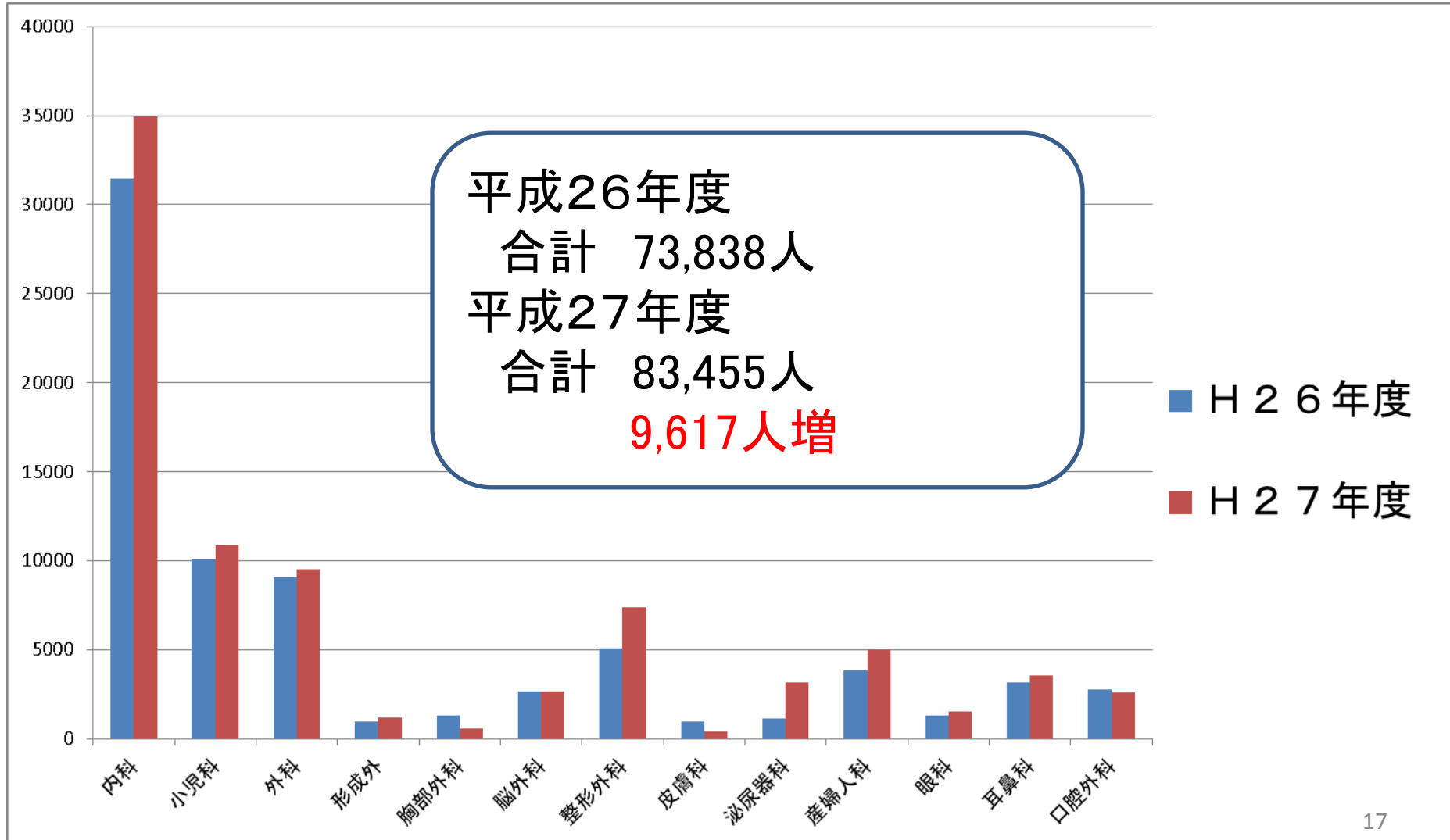
診療科別受診延患者数



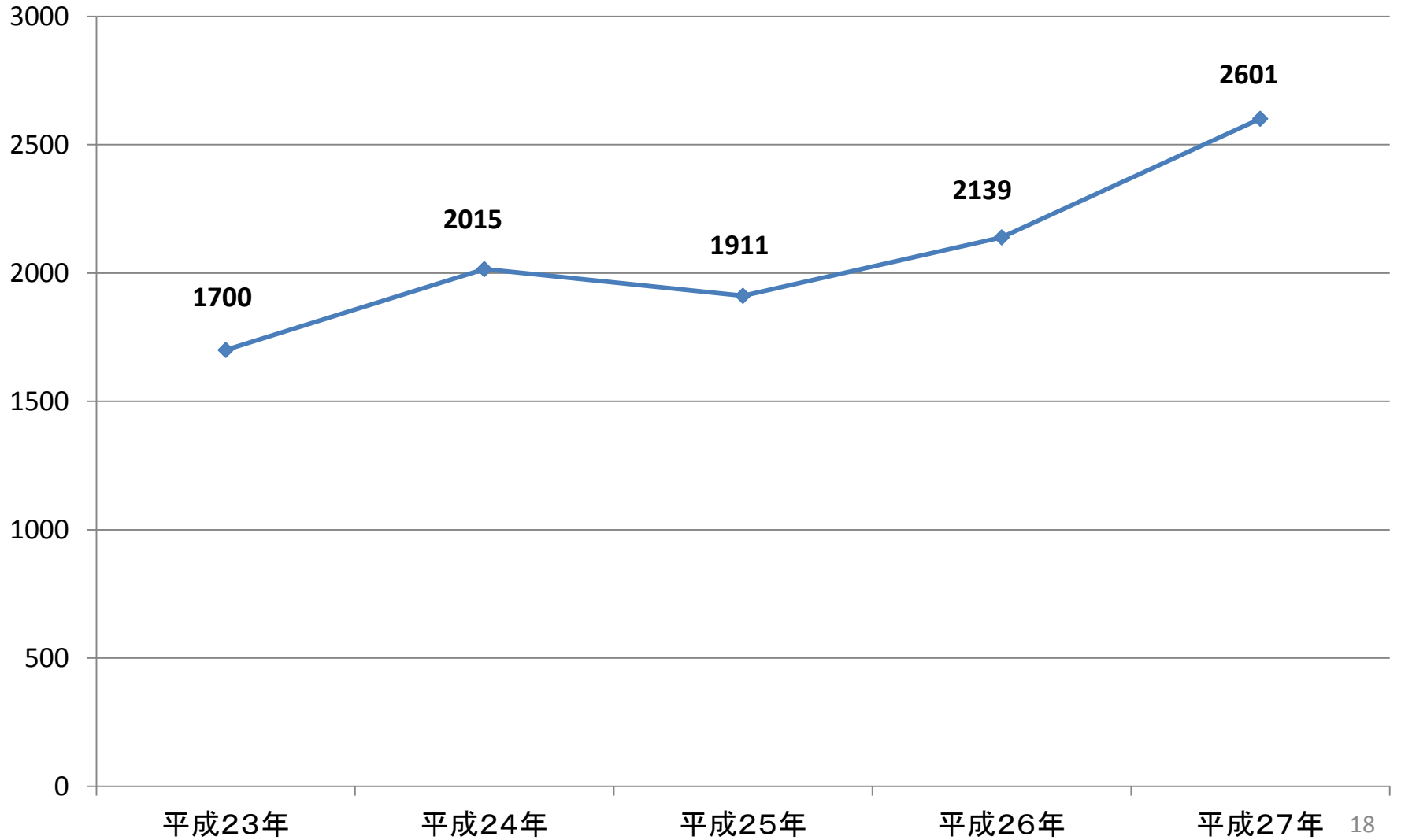
入院患者数



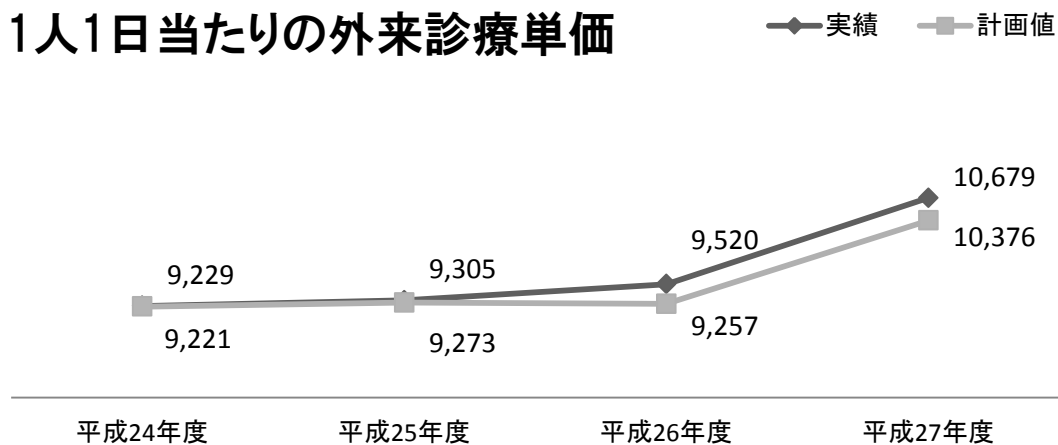
診療科別入院延患者数



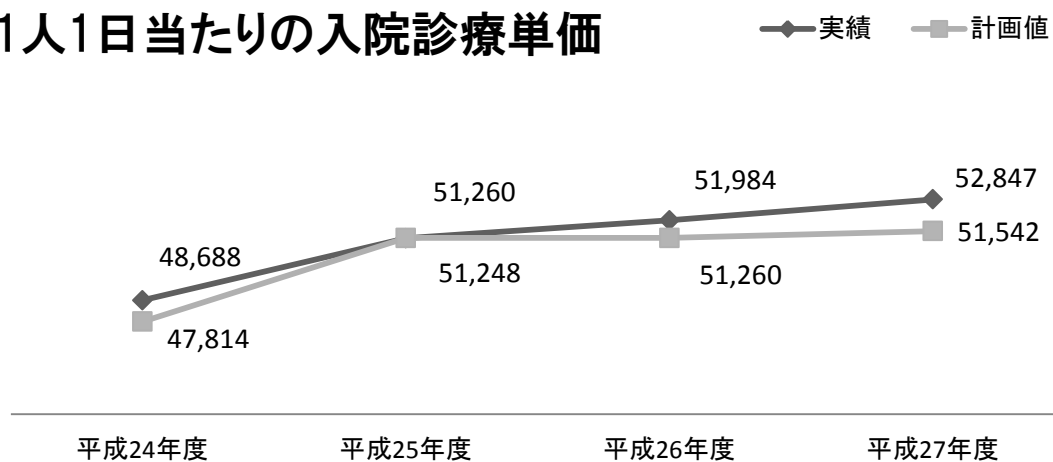
手術件数



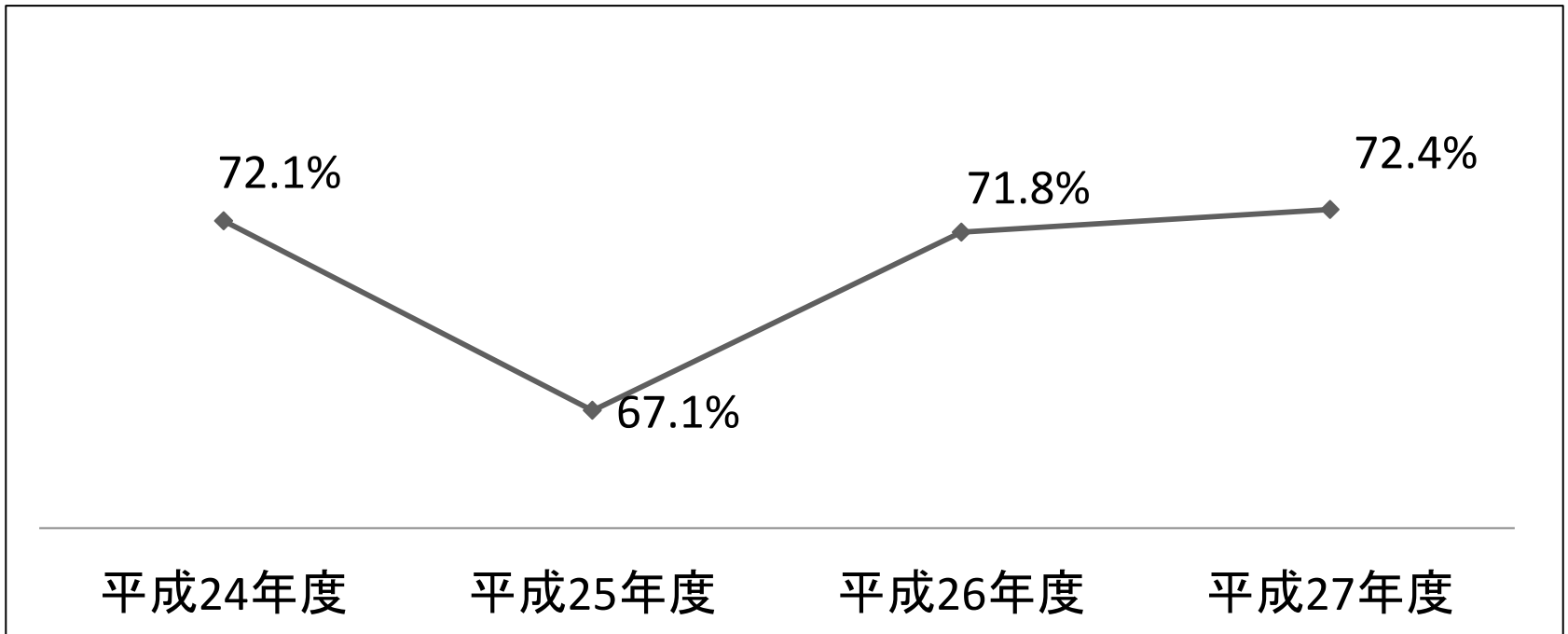
1人1日当たりの外来診療単価



1人1日当たりの入院診療単価



病床稼働率



がん診療

核医学検査件数

平成26年10月～12月	165件
平成27年 1月～12月	686件
平成28年 1月～10月	541件

放射線治療延件数

平成27年	2311件
平成28年	2387件(10か月)

化学療法延患者数

平成26年 779件

平成27年 958件

平成28年 1015件(10か月)

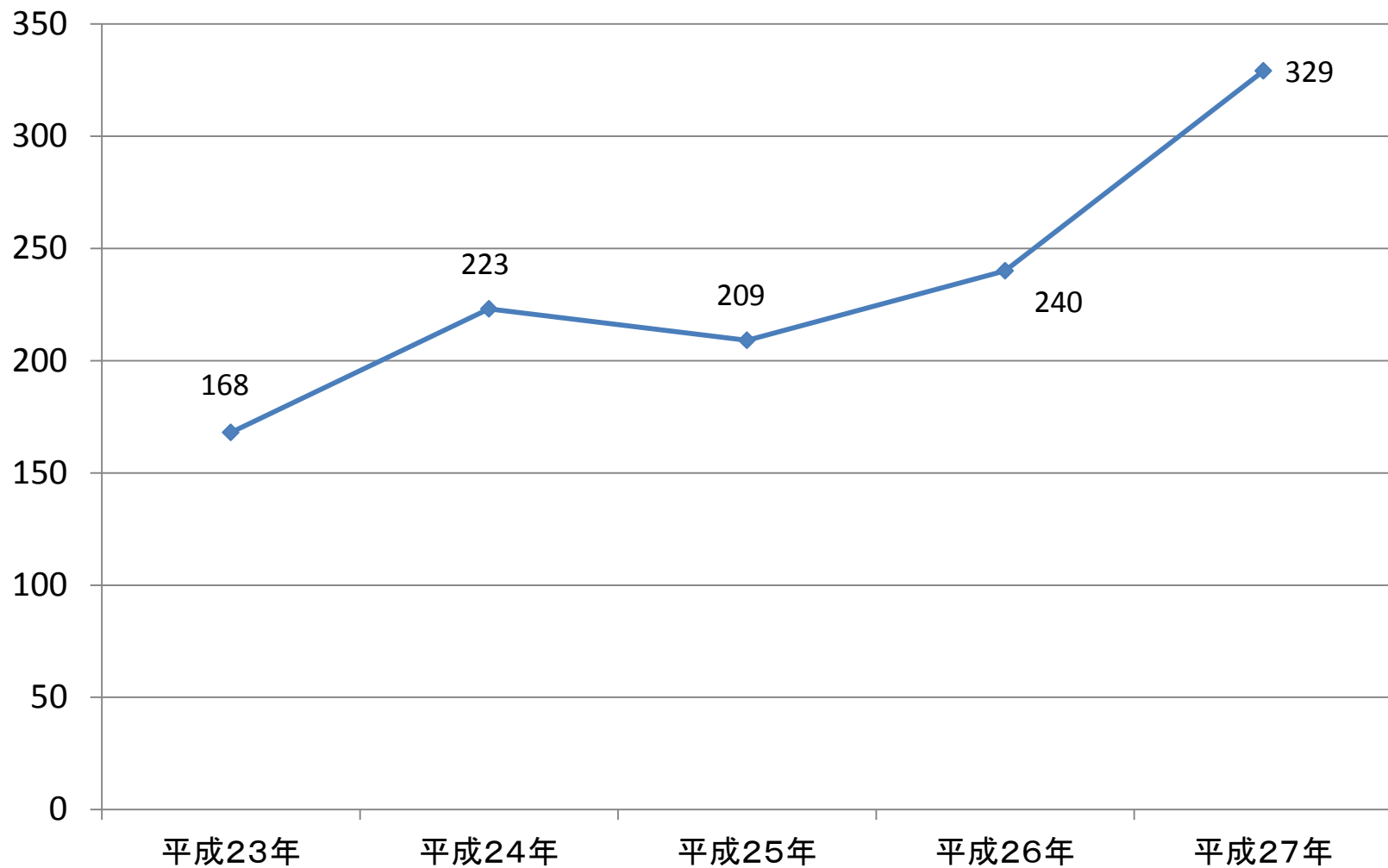
地域がん登録数

平成23年108件 平成26年 263件

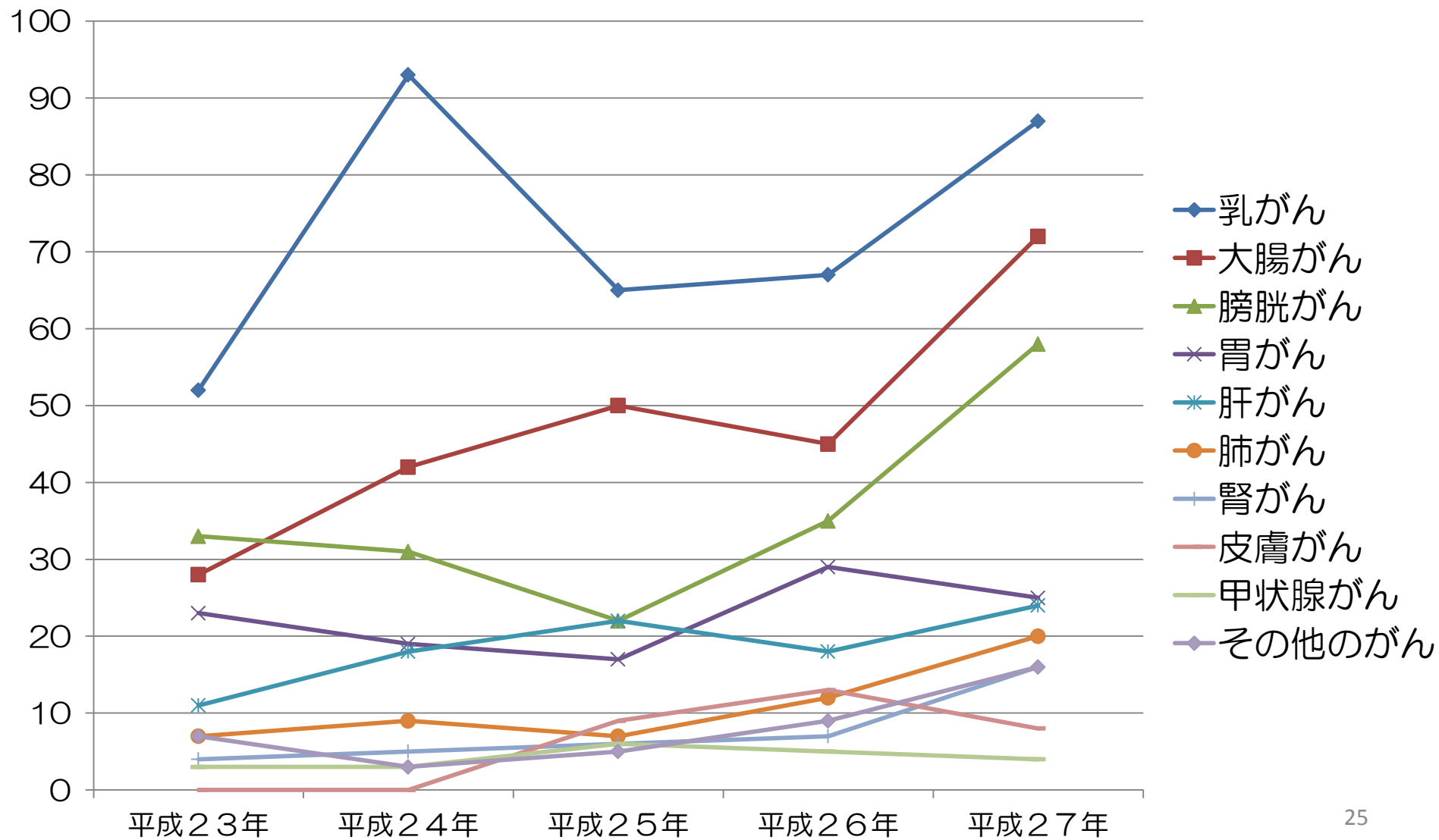
平成24年217件 平成27年 556件

平成25年154件

悪性腫瘍手術件数



悪性腫瘍手術内訳



緩和ケア

緩和ケア病棟

【現状】

平成27年度の病棟運営状況

入棟139名 院内74人(53%)

院外65人(47%)

病床稼働率 49.9%

平均在院日数 25.6日

最短1日 最長227日

転帰 133名 死亡 97%

転院・転棟など 3%

緩和ケア外来

【現状】

- 一応週一回火曜日に設定しているが、その他の日も柔軟に緩和ケア外来の対応をしている
- 平成27年度 149件

【課題】

- 現在、緩和ケア病棟入棟目的の診察となっており、緩和ケア科の通院をしていない
- 緩和ケア病棟を退院し緩和ケア科通院を希望する患者もいるため検討が必要である

遺族ケア

- 年1回の遺族会を開催を予定
- 退院後半年以内の家族にご案内
- 8家族から参加の返事あり
- 職員からもご家族からも開催について賛同の意見が多数
- 今後も継続して開催することの重要性を認識

【課題】

- 病床稼働率をあげる
昨年度の平均病床稼働率は49.9%
- 主治医、副担当医制
緩和ケア担当医の負担軽減
- レスパイト入院について
家族へのサポートが必要な事例もあり、公立病院の役割としてレスパイト入院を検討

外来・入院の推移及びがん診療に対する改善策

- 新病院開院によるアメニティ向上による新病院効果
- 旧病院にはなかった放射線治療装置の導入、SPECT装置や、320列CT,3TのMRIなど最新の検査機器の導入
- 緩和ケア病棟の開設
- 腹腔鏡下手術による低侵襲の治療の早期からの導入
- 大阪府地域がん診療拠点病院の指定
- 休日に乳がん検診を行う体制づくり

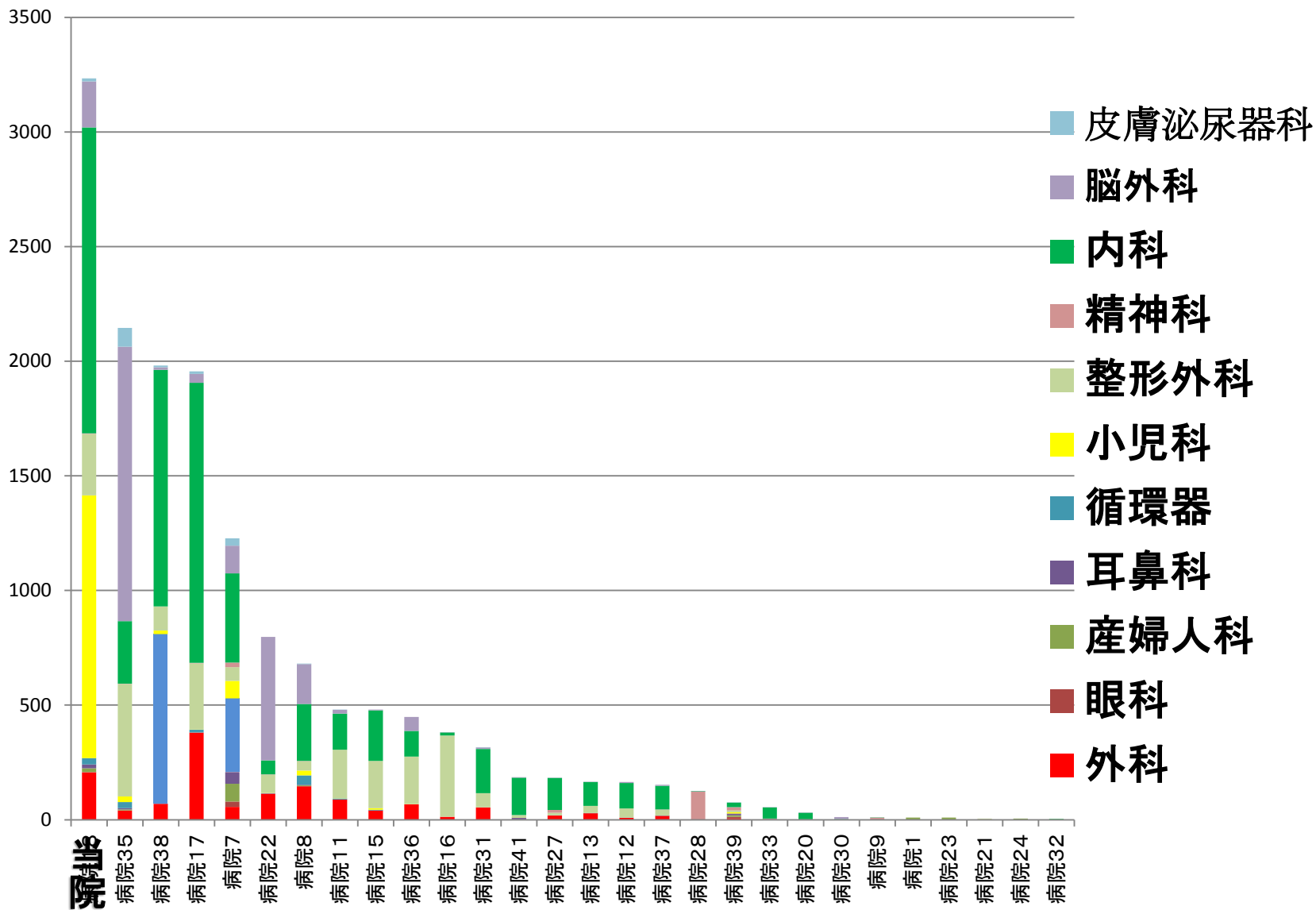
病院経営に係る課題

- 新病院建設に伴う建物、医療機器の償還金
一時的増大の問題
- 入院診療単価、外来診療単価のアップ
- 病床稼働率のアップ

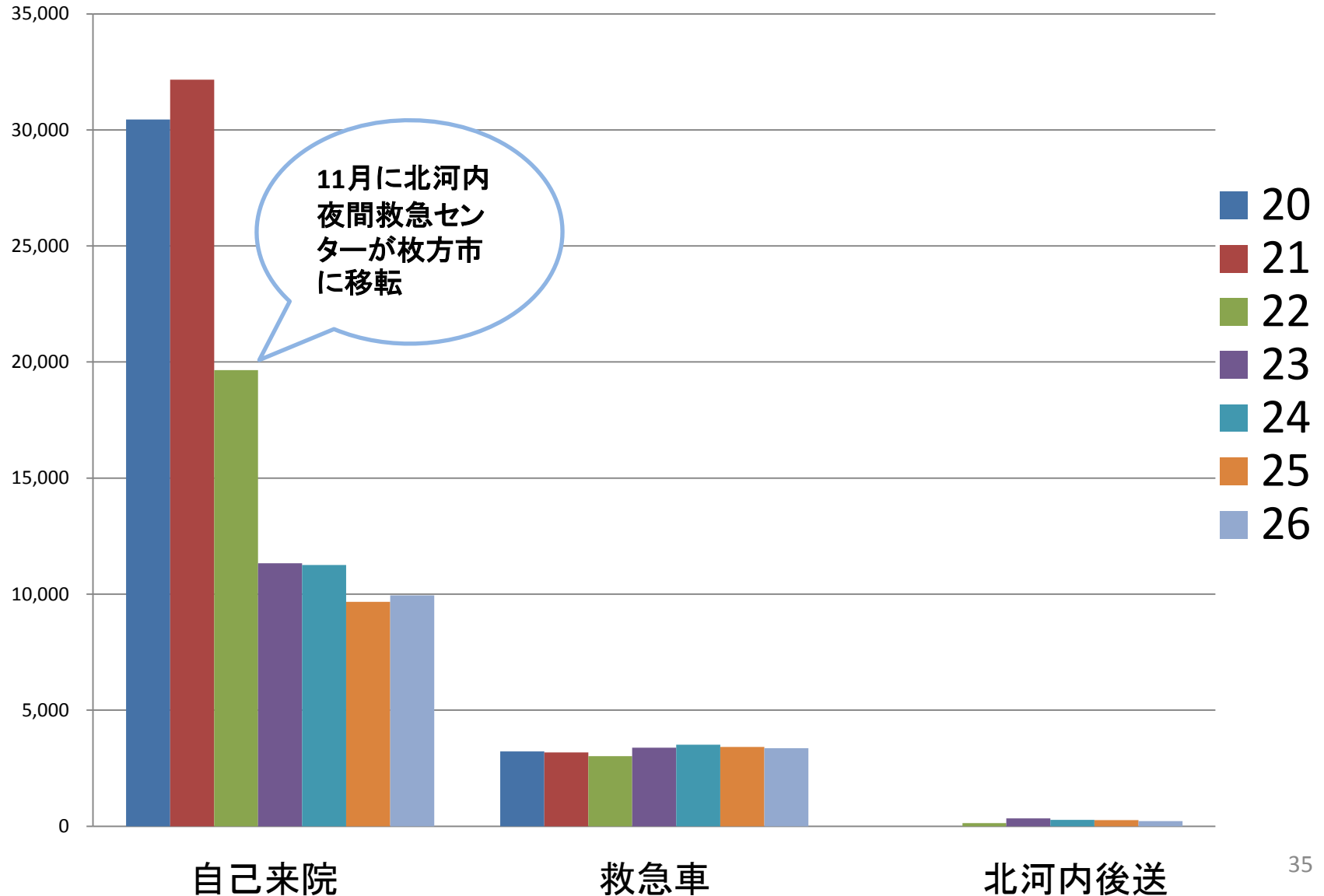
- 現在公立病院新ガイドラインの策定に向けて、
現在の中期経営計画の評価と、新たに5
年計画を策定中

救急診療体制

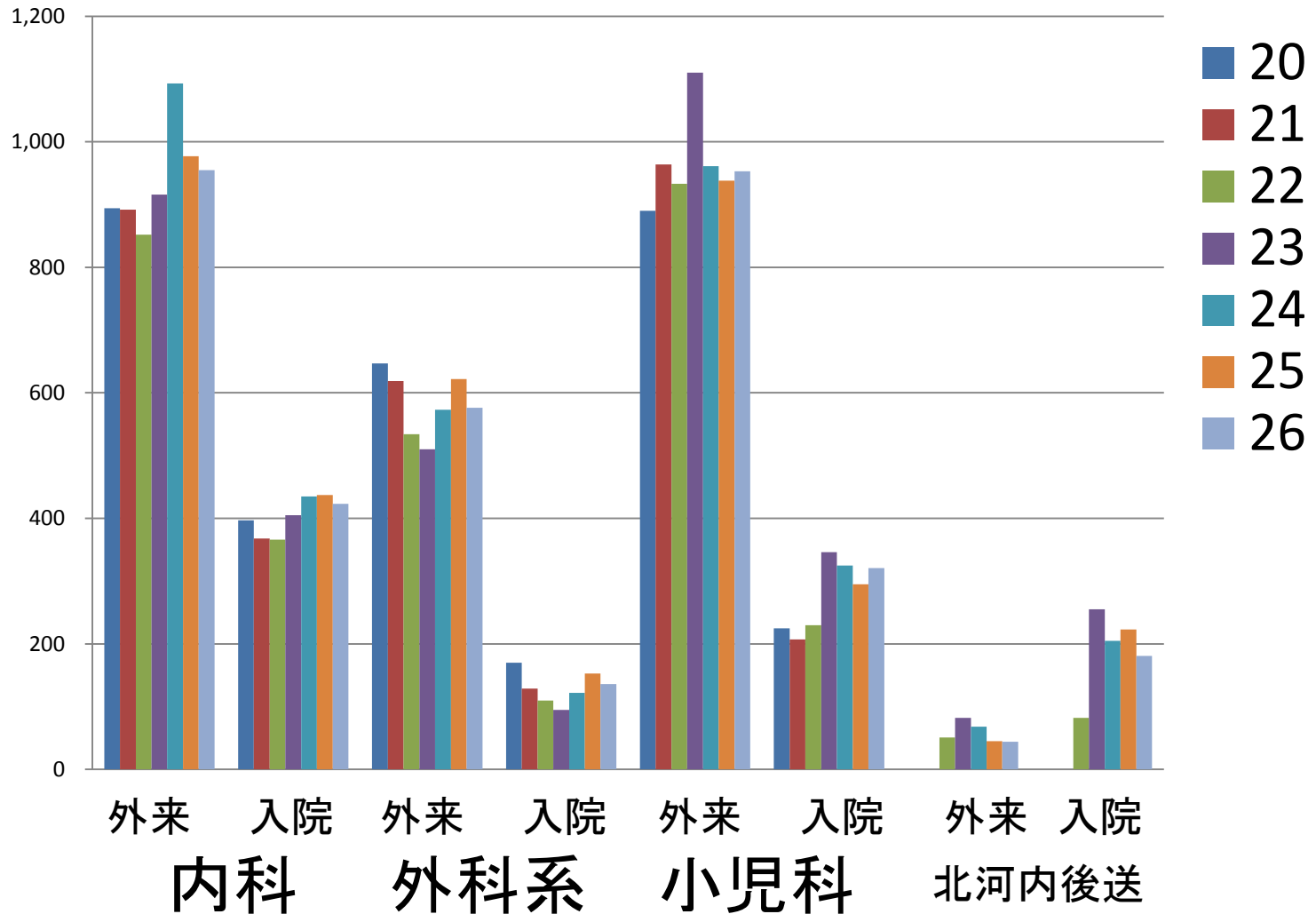
平成26年度救急搬送先医療機関 (患者は枚方市民のみ)



年度別救急外来受診者数



救急車来院科別件数



北河内夜間救急センターの移転 (平成22年11月)

- 当院での小児科の一次救急の増加による医師の疲弊と本来必要な二次救急医療に障害
- 当院のみが北河内二次医療圏で小児科の24時間365日受け入れ可能
- 当院の隣接した場所にセンターを移転して、二次は基本的には当院で受ける
- 近隣の寝屋川市から枚方市へのセンターの移転(北河内7市の合意)

当院の救急患者数（年間）

平成20年

小児救急診療件数 18,153件


全科救急患者数 33,667件

小児科救急車搬送件数 1,115件

全科救急車搬送件数 3,223件

枚方市・交野市・寝屋川市医師会、
大学病院からも医師を派遣していただいていた

平成23年と平成20年との比較

1、患者数 18,153人  2,278人

約9割減(自己来院者が激減)

自己来院患者は各市の休日診・北河内へとシフトしたと考えられる

市民周知・患者周知も有効であった

2、入院者数 762人  979人

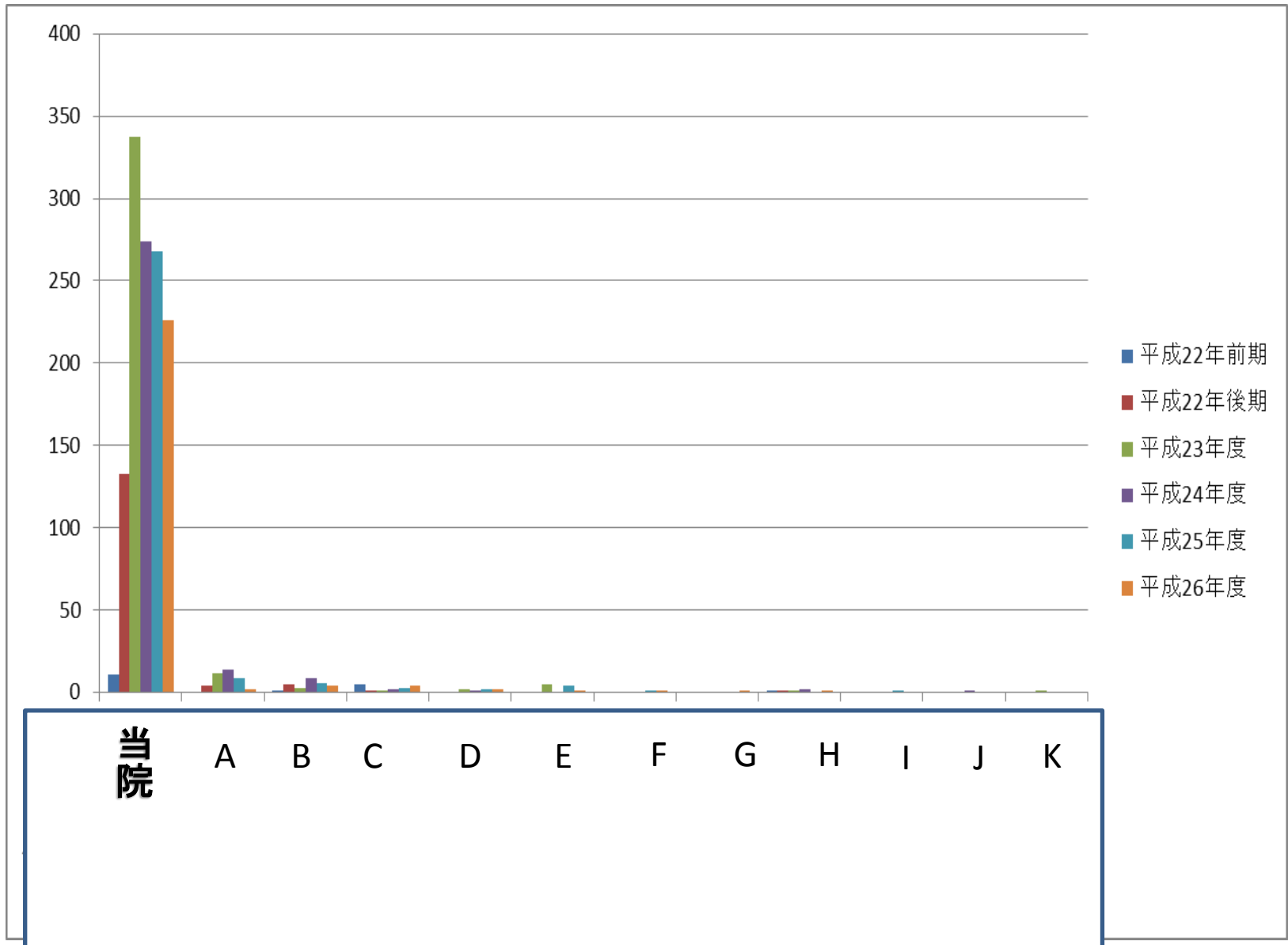
約3割増

1次トリアージが有効に機能している

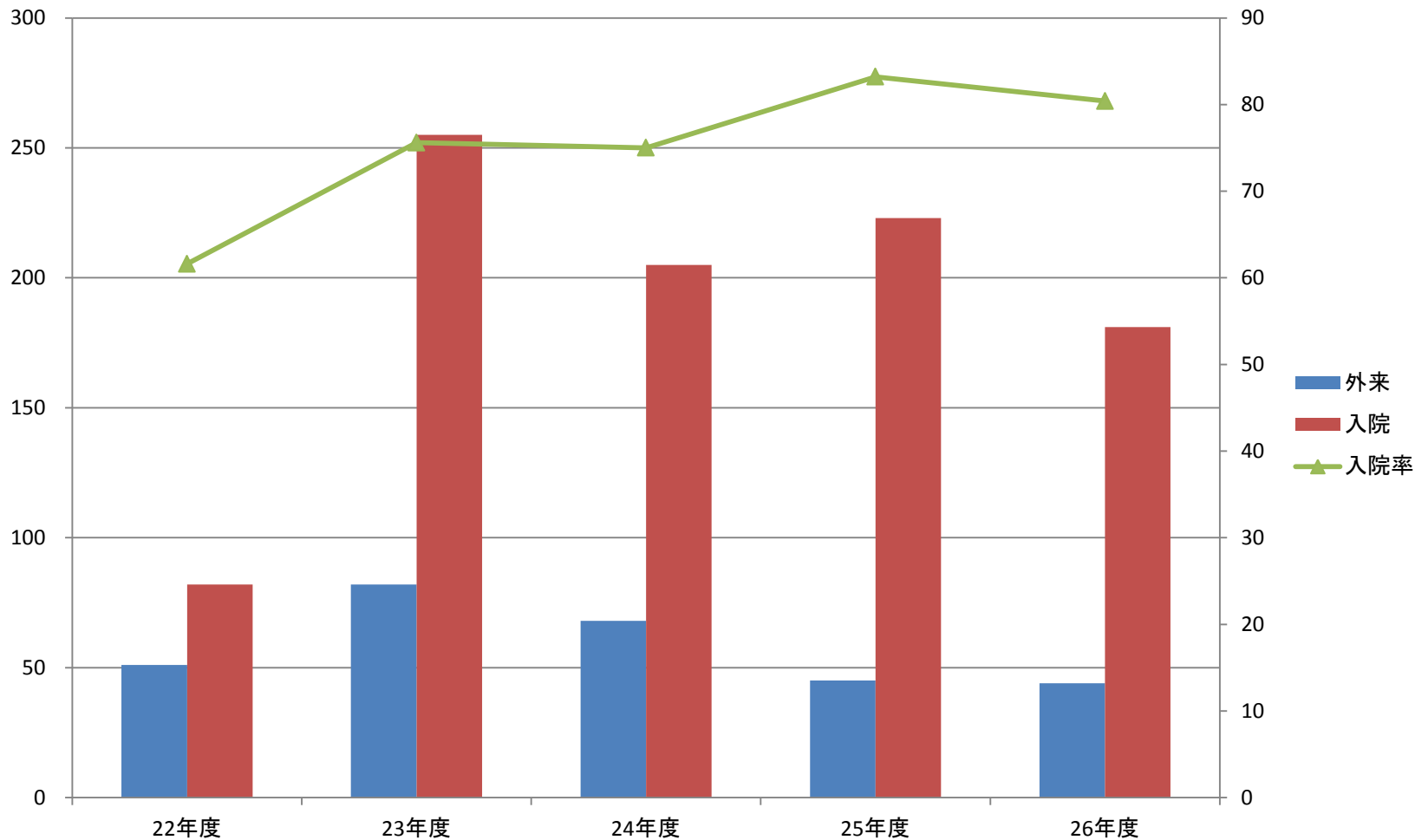
3、入院率 4%  43%

当初の狙いどおり2次救急に専念できている

北河内救急センター(小児科)から 後送患者受け入れ病院



北河内夜間救急センターからの 後送患者入院数



医療圏での役割

- 北河内二次医療圏で、24時間365日救急入院体制を施行しているのは、小児科では当院のみ、他に、内科、外科系、産婦人科も同様の体制をとっている。市内の救急搬送の25%を受け入れている
- 枚方市内の公的4病院と月一度の院長による定期会合を開催、連携と役割分担を行っている。各病院の特色は比較的に出せている状態
- 市内の急性期病院5病院の地域医療ネットワーク構成の中心的役割を担って現在整備中。28年度中に実施予定
- 地元医師会と良好な関係を築き、本院の隣接地に一次救急センター機能を持つ新医師会館を建設予定
- これにより当院は二次救急に専念可能になる

災害医療

災害医療訓練

平成27年3月7日
平成28年10月1日

【目的】

災害発生時に、
枚方市災害医療センター
として、迅速かつ、適切な
医療活動ができること



被害想定と本院の役割

1、想定

平日午後、枚方市域で震度6強の大地震が発生し、家屋・建物の崩壊により被災者が多数発生している。

2、本院の役割

- (1) 本院へ殺到する負傷者への対応
- (2) 被災現場からの救急搬送者への対応
- (3) 拠点救護所への医療救護班の派遣
- (4) 市内の災害協力病院との協力(今回は市内主要病院も多数参加)

トリアージタグ(表)

- ✓ 最初に、通し番号を振っておく(左上とモギリ部)
 - ✓ 実施者と記載者に別れる。
 - ✓ トリアージ時刻、実施者は追記されるので、上から記載する。
 - ✓ トリアージ理由と記載またはチェック、区分を○で囲む。
 - ✓ 黄色以上の重症度はモギリ部をもぎり保管しておく。
 - ✓ 原則として四肢(右手首→左手首→右足首→左足首)を行う。
- 衣服や靴などへの装着は避ける。
- ✓ 一枚目の紙を一次トリアージ実施者が保管し集計する。
 - ✓ 二枚目の紙は搬送者が保管し集計する。

(災害現場用)

No. () 氏名 (Name)	年齢 (Age)	性別 (Sex) 男 (M) 女 (F)
住所 (Address)	電話 (Phone)	
トリアージ実施月日・時刻 月 日 AM 時 分 PM	トリアージ実施者氏名	
搬送機関名	収容医療機関名	

〔一次トリアージ〕 誘導に従いチェックし、0～Ⅲのいずれかに至った時点で終了。

歩行 可能 → **III**
 不可能 → **0**

呼吸 無し → **0**
 有り <10/分、≥30/分 → **I**
 10～29/分 → **I**

爪圧迫後再充満時間 (または脈拍数) >2秒 (≥120/分) → **I**
 ≤2秒 (<120/分) → **I**

単純命令 応じない → **II**
 応じる → **II**

0
I
II
III

No. 鳥味消防 001	氏名 (Name) 不明 サイカイタロウ	年齢 (Age) 40代(推定) 45才	性別 (Sex) <input checked="" type="radio"/> 男 (M) 女 (F)
住所 (Address) 東京都〇〇区△△1-1		電話 (Phone) 03-0000-△△△△	
トリアージ実施月日・時刻 〇月△日 <input checked="" type="radio"/> AM 11時50分 PM 12時20分		トリアージ実施者氏名 織田 〇長 豊臣 秀〇	
搬送機関名		収容医療機関名	





2次トリアージポスト
医師

2次トリアージポスト
看護師

2次トリアージポスト
看護師

2次トリアージポスト
看護師

受付 B
Front

受付書文

会計ファイル受付

②

会計ファイル提出は
救急受付(受付H)へ

③

My 備蓄(職員用備蓄)



感染症対策

感染症対策の充実

- 大阪府から第2種感染症指定医療機関に指定
- 感染症病床は8床、すべて陰圧個室
- 強毒性の感染症にも対応可能
- 重症感染症用の診察室を隔離エリアに設置
- 感染症病棟専用のエレベーター設置し、他の患者と接触なく感染病棟に移動可能
- 弱毒性の場合の発熱外来を想定して小児科外来を感染患者用に分離 ドライブスルー型を想定

医療安全

院内死亡・合併症提出基準(1)

1. 院内死亡事例(術中死・術後30日以内の手術関連死・検査(カテーテル、内視鏡など)・処置に関連した死亡・化学療法中の死亡・入院後24時間以内の死亡など)
2. 院内で急変し心肺蘇生を必要とした事例
3. 48時間以内の再入院
4. 48時間以内の再手術
5. 肺塞栓症の院内発生

院内死亡・合併症提出基準(2)

6. 処置・手術に伴って発生した濃厚な治療を要する合併症(内視鏡操作時の穿孔例や重症感染症など)
7. 薬剤の重篤な副作用
8. 医療器械の誤作動による有害事象
9. 出産に関連した死亡(死産・母体死亡)
10. その他、経過に問題があると思われる事例

地域連携

地域の医院・病院への訪問

枚方市、交野市、寝屋川市 約300件

- 医院の専門、地域性等
情報収集した結果をデータベース化
- 後方連携（逆紹介）
かかりつけ医への紹介・案内
- 訪問後の意見、要望への回答報告、
対処 など
- 地域への情報発信 かわせみの発行



基本理念 「心のかよう医療を行い、信頼される病院」

かわせみ



市立ひらかた病院ニュース

2015
春号
VOL. 36

〒573-1013 枚方市禁野本町 2-14-1

Tel (072) 847-2821

Fax (072) 847-2825

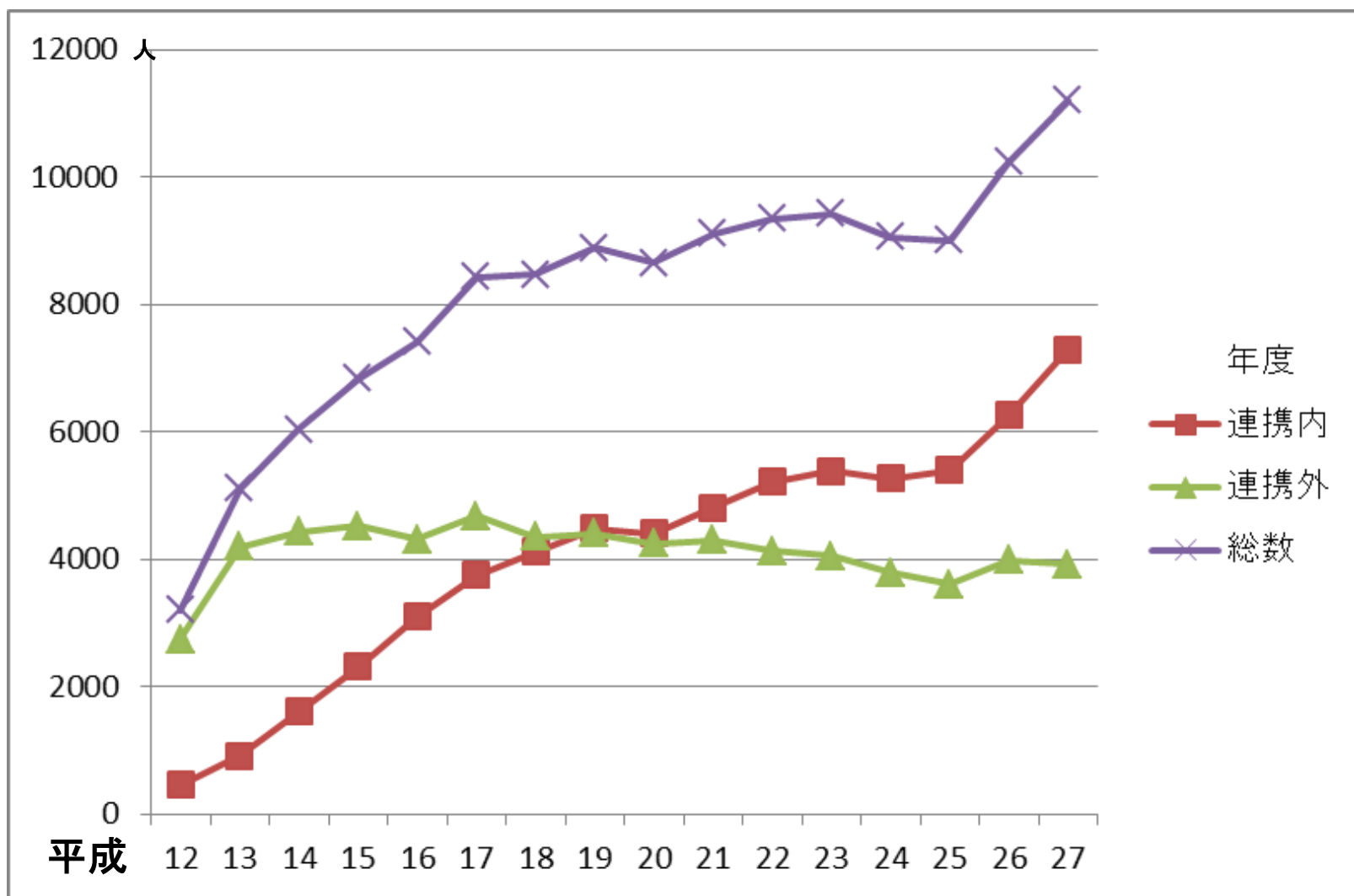
ホームページ <http://hirakatacity-hp.osaka.jp/>

身体に優しく、負担の少ない治療をめざし

今年から新装置による放射線治療を開始

がんサポート体制も充実へ

紹介患者数の推移



枚方コンソーシアム事業

- 市内の医学部、薬学部、歯学部を有する3大学、市内の公的4病院、市内の民間病院(21病院)と枚方市の共働にて健康都市を目指す

災害医療対策

感染症対策

地域医療構想対策など

健康医療都市ひらかた コンソーシアム通信

Vol.23

平成28年(2016年)
10月発行

【編集・発行】枚方市 健康部 健康総務課 TEL: 841-1319 FAX: 841-2470
MAIL: kenkousoumu@city.hirakata.osaka.jp



10月1日(土)、市立た病院と枚方市災害医療の優先順位を判断する「アーシ」に特化した訓練で、第1部では、トリアに関する講義の後、グループ成し、症例に基づいて「アーシ」を行い、トリアに記入する訓練がなされました。

第2部では、市域で強を観測し、電気・ガス電話がストップしたとのもので、市の災害医療である市立ひらかた市内の災害協力病院で方公済病院、星ヶ丘医療、佐藤病院、有澤総合吉田病院の医師や看護師を編成し、患者の受け

災害発生時の円滑な市立ひらかた

全市民に配布して、情報提供を行っている

その他当院での取り組み

職員に対する院内ニュースの発行

病院の経営状況や院内で行われているイベントなどの情報を共有(毎月)

市民に対する広報活動

市民公開講座の定期的な開催(年4回)
日曜日に行う乳がん検診の実施(年2回)

市内の中学校に対する講演会
や院内の体験学習

医師や看護師による市内の中学校などへの
出前の講演会の実施
・ がんや性教育などをテーマ

市内の公的4病院との連携

院長や事務局長とのミーティング(月1回)
ITを使った地域医療連携システムの構築など

院内合同症例検討会

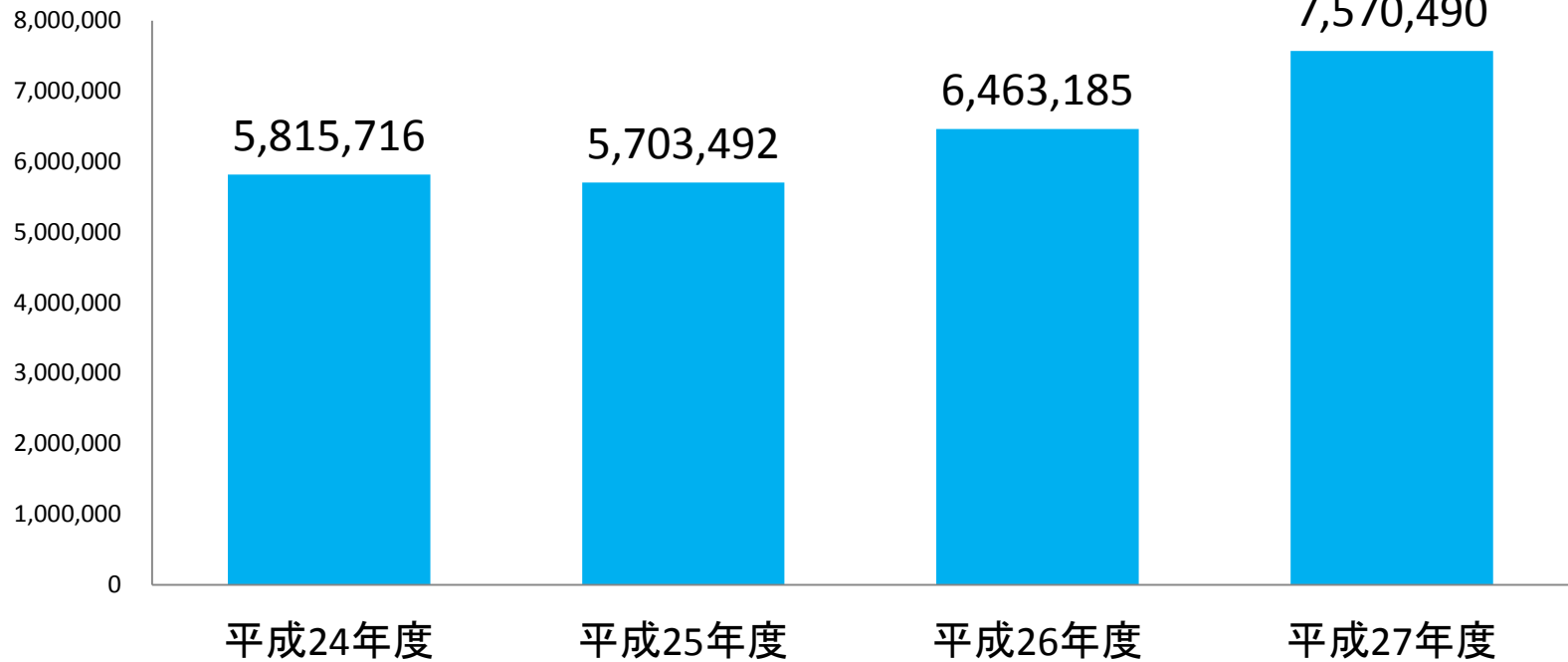
死亡例の検討(CPC)や院内各部署から定期的な活動報告など(月1回)

地域医療連携

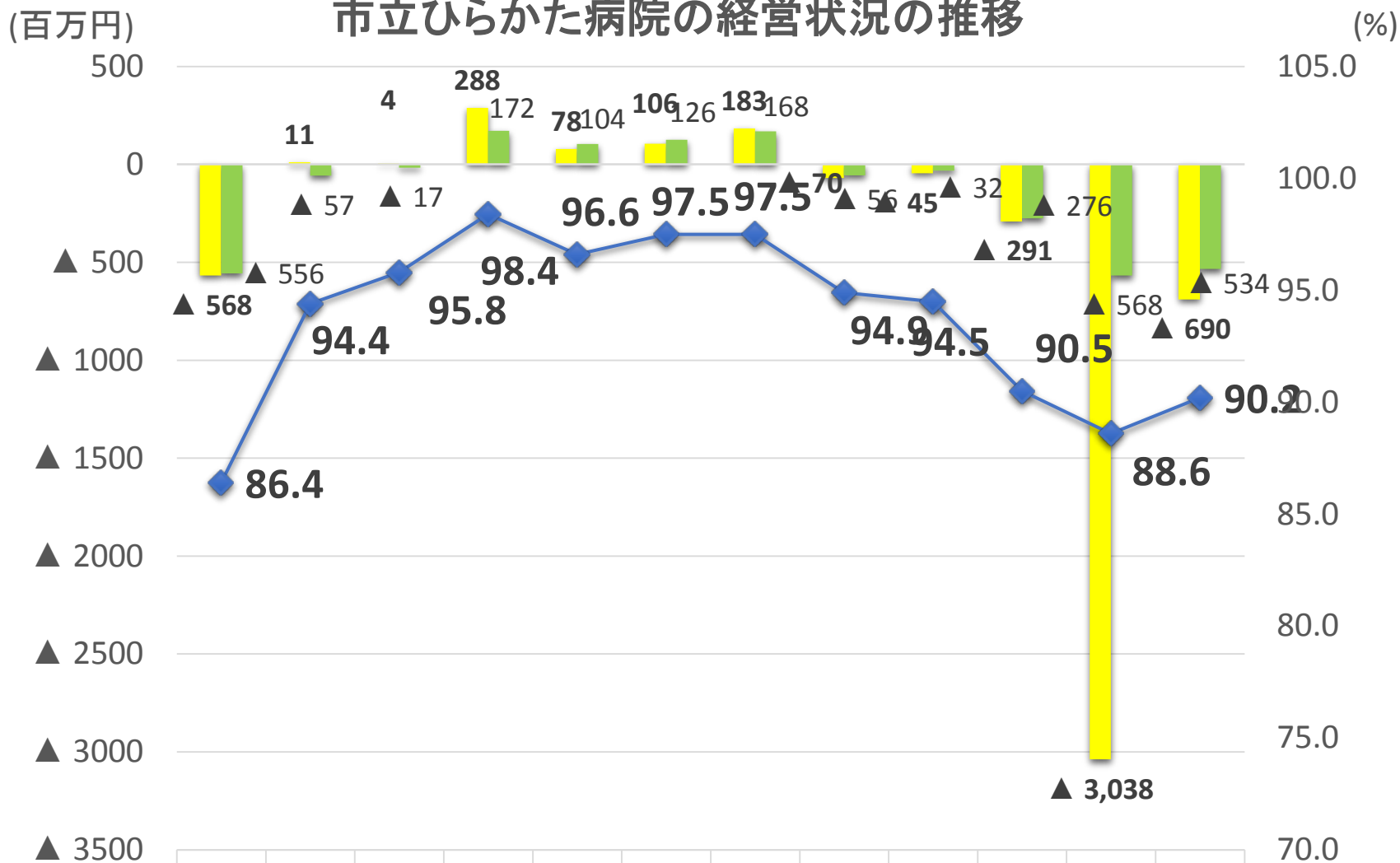
- 地域医療連携室の充実により、開業医の先生からの紹介を平日の夕方8時まで受ける体制、また土曜日午前中は連携室をオープンする体制を早期からとってきた。
- 前方連携では、近隣3市の開業医を個別訪問して、病院のアピールするとともに開業医の得意分野の把握をして後方連携につなげる
- 後方連携は入院時からかかわっていくことで長期の入院を減らす工夫をしている
- 効果としては、連携室を通じた紹介が年々増加している。
- 後方連携については、市立病院であることからなかなか困難なケースもあり、退院支援の充実が課題である
- 今後は地域医療ネットワークをうまく利用して連携を深めたい

経営状況の推移

医業収益(千円)



市立ひらかた病院の経営状況の推移



	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 単年度純損益	▲ 56	▲ 11	▲ 4	▲ 288	▲ 78	▲ 106	▲ 183	▲ 70	▲ 45	▲ 29	▲ 3,038	▲ 69
■ 経常収支	▲ 55	▲ 57	▲ 17	▲ 172	▲ 104	▲ 126	▲ 168	▲ 56	▲ 32	▲ 27	▲ 56	▲ 53
◆ 医業収支比率	86.4	94.4	95.8	98.4	96.6	97.5	97.5	94.9	94.5	90.5	88.6	90.2

■ 単年度純損益 ■ 経常収支 ◆ 医業収支比率

今後の病院経営をどう進めるか

- 経営戦略としては、7対1病棟の一部を地域包括ケア病棟に変更するかどうかの検討
- 救急車の受け入れ率のアップを目指し、これまで以上の救急体制の維持をする
- 緩和ケア病棟を有するがん診療拠点病院としてがん診療（二次医療圏では2病院のみ）
- 不採算部門の受け入れは自治体の政策として今後も行っていくことが必要
- 特に地域医療構想の中心的役割を果たす必要があり、在宅看護や在宅リハ、在宅緩和ケアなどを構想として持っている。

おわり

市立ひらかた病院